

平成 19 年度 播磨町水道事業報告書

1 概 況

(1) 総括事項

本年度の給水業務状況は、給水装置数が前年比で 125 栓(0.9%)増の 14,598 栓、給水人口で 64 人(0.2%)増の 34,316 人となりました。なお、年間有収水量は、5,724m³ (0.1%)減の 3,858,738m³ となり、ここ数年続いていました大幅な減少ではありませんが依然として減少傾向であり、今後も続くことが推測されます。

水道施設の構築については下水道整備事業等に併せ、配水管布設替工事を施工し、また第 3 浄水場においては災害対策等への対応を進め、平成 18 年度より水道施設の耐震化工事を継続しています。

経営状況(税抜)は、総収益が 581,219,756 円に対して、総費用が 590,077,091 円で、当年度純損失 8,857,335 円を計上しました。

水道事業収益の主なものは、水道料金 544,198,653 円で、収益全体の 93.7% を占めています。一方、水道事業費用の主なものは、企業債利息 60,668,866 円(10.3%)、減価償却費 216,610,422 円(36.7%)、職員給与費 57,266,940 円(9.7%)、県水受水費 71,620,320 円(12.1%)、動力費 36,584,952 円(6.2%) で費用全体の 75.0% を占めています。以上の結果、供給単価は 141.03 円、給水原価は 149.36 円になりました。

資本的収支(税込)の総収入額が 46,784,141 円に対して、支出が建設改良費 77,080,426 円、企業債償還金 260,370,831 円、投資 199,909,310 円で、総支出額 537,360,567 円となりました。なお、不足の 490,576,426 円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 583,328 円、過年度分損益勘定留保資金 489,993,098 で補てんしました。

以上が、平成 19 年度における経営並びに事業実施の概要であります。今後におきましても、町民に清浄にして低廉な水の安定供給を図るため、水源の確保と経営の合理化及び経費の削減を図り、公共福祉の向上に努める所存です。